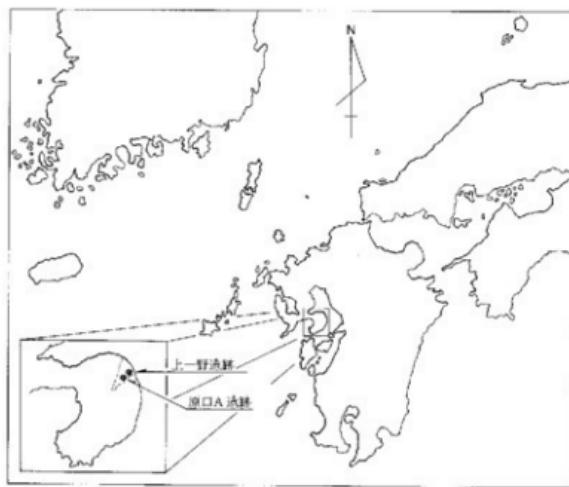


上一野・原口A 遺跡

1990

長崎県有明町教育委員会

上一野・原口A 遺跡



例　　言

1. 本書は、平成元年度に実施した、長崎県南高来郡有明町三之沢名字上一野・下蓮輪（上一野遺跡）及び字一野上灰久保（原口A遺跡）所在の緊急範囲確認調査報告書である。
2. 調査は有明町教育委員会が主体となり、長崎県文化課が協力して実施した。
3. 本書の執筆は分担して行い、執筆者は本文目次に記している。
4. 調査担当者は下記のとおりである。
藤田 和裕
長崎県教育庁文化課主任文化財保護主事
町田 利幸
長崎県教育庁文化課文化財保護主事
5. 調査時の写真撮影は藤田、整理後の遺物実測は町田が写真撮影は藤田による。
6. 本書の編集は町田が行なった。
7. 出土遺物は、現在県文化課で保管しているが、本書刊行後は有明町教育委員会に移管の予定である。

本文目次

I 調査に至る経緯.....	1 (町田)
II 遺跡の立地と環境.....	1 (町田)
III-1 上・野遺跡調査	
(1)調査の概要.....	4 (町田)
(2)土層.....	5 ()
(3)遺物.....	6 () (東部)
III-2 原山A 遺跡調査	
(1)調査の概要.....	9 (藤田)
(2)土層.....	11 (町田)
(3)遺物.....	12 ()
IVまとめ.....	12 (町田)

挿図目次

第1図 有明町周辺地形分類図.....	1
第2図 磐石原遺跡出土.....	2
第3図 妙法塔遺跡出土.....	2
第4図 松尾遺跡出土.....	2
第5図 有明町遺跡地図.....	3
第6図 上・野遺跡位置図 (1/25,000)	4
第7図 調査区配置図.....	4
第8図 土層図.....	5
第9図 表面採集遺物.....	6
第10図 出土遺物.....	6
第11図 出土遺物.....	7

第12図	表面採集遺物	7
第13図	出土遺物	8
第14図	原口A 遺跡位置図 (1/25,000)	9
第15図	調査区配置図	10
第16図	上層図	11
第17図	表面採集遺物（石器）	12

図 版 目 次

図版 1	上一野遺跡遠景・調査風景	15
図版 2	上一野遺跡土層	16
図版 3	原口A 遺跡近景・調査風景	17
図版 4	原口A 遺跡土層	18
図版 5	上一野遺跡（出土及び表面採集遺物）	19
図版 6	上一野・原口A 遺跡（出土及び表面採集遺物）	20

I 調査に至る経緯

上一野・原口A遺跡とともに、広域関連農道拡幅工事（一野地区）に伴う平成元年度の国庫補助を受けて、緊急発掘確認調査を実施した。

上野遺跡では、工事路線区内 150 m について造物の分布が認められ、工事に先立ち 2 × 2 m の試掘壕を 8 箇所設定し、平成元年 5 月 8 日～5 月 12 日の間調査に入った。

原口IA 遺跡は、工事路線区 500 m に渡り遺物の分布があり、 2×2 m の試掘擴を 18箇所設定し、上一野遺跡調査後入る予定であった。しかし、ニンジン・ジャガイモ等の収穫が遅れてい るため、前半を 5月22日～5月26日に後半を 6月5日～6月10日調査を実施した。

II 遺跡周辺の立地と歴史的環境

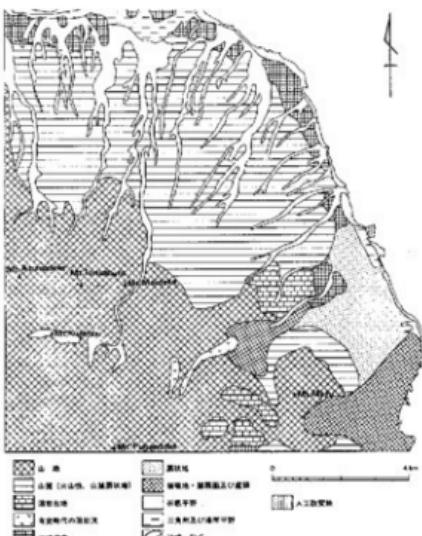
有明町は、舞岳(702m)を頂点に有明海側へ扇形に丘陵が伸びていて、北側を栗谷川で国見町と接し南側を金洗川で島原市と境を分ける。また、前面には有明海を一望し対岸の熊本県側の海岸線や山系を確認できる。

^{註3}町内の表層地質は、約25万年前の第四紀更新世中期に雲仙火山の基底部が形成された。この火山堆積物が雲仙火山碎屑岩層（巣石層）として残り、標高300mから海岸線へ広大な裾野をなしている。その後舞岳の火山泥流が堆積し、有明町の海岸台地に分布する大三東ローム層（オレンジ色ローム層）を形成している。

土壤は、標高300m～100m付近が淡色黒ボク土壤に覆われ、畑作を中心とした農業が盛んで、100m以下の小河川流域では多湿黒ボクによる林

遺跡では、旧石器時代の遺跡の発見がないが、国見町の百花台遺跡近くの有明の森から二ヶ所に亘る折地にかけて表面採集の報告がある。しかし、性格や時期等については判然としない。

縄文時代では、早期（山形押型紋）の森岡遺跡・東空閑城跡遺跡・一野遺跡が知られているが前期・中期についての追跡の発見がない。後期から晩期の遺跡で、中田・大原野・小原下



第1図 遺跡有明町周辺地形分類図

^{註12} 磐石原遺跡等の遺構、遺物を良好に包藏する遺跡が所在する。

^{註13} 弥生時代になると、島原市の景華園遺跡の支石墓が知られているが、町内では甘木遺跡において2基の支石墓が発見されている。しかし、未調査のため詳細については不明である。^{註14} 中期には、斐棺の出土した遺跡として、妙法塚・大野原遺跡があげられる。

古墳時代の遺跡としては、高塚古墳として確認できるのは平山古墳のみであるが、妙法塚の

石棺（5世紀前半）や一野遺跡の石棺（7世紀頃）などがある。

この他8世紀～9世紀にかけての生活跡として松尾遺跡がある。^{註17}

中世の遺跡に関しては、第5図に掲載あげた以外に針崎・大野浜城があがっているがいずれも未調査のため遺構等の実態が不明確である。

註1 昭和63年8月31日 広域農道一野地区に関する協議を県文化課、島原振興局・町教委・町建設課がおこなう。

註2 註1と同じ

註3 長崎県「土地分類基本調査」「島原・荒尾」 1976年

註4 長崎県教育委員会「百花台遺跡」長崎県文化財調査報告書 第78集 1985年

註5 有明町「有明町史上巻」 1987年

註6 宮崎・草他「島原半島の古代文化」 1962年

註7 昭和59年7月県文化課試掘調査

註8 長崎県教育委員会「一野遺跡」長崎県文化財調査報告書第86集 1987年

註9 長崎県立島原高等学校「南高米都有明町大三東中田遺跡の報告」 1958年

註10 昭和44・59・60年 発掘調査

註11 註5と同じ

註12 長崎県島原市教育委員会「磐石原遺跡」島原市文化財調査報告書第4集 1988年

註13 支石墓2基（弥生時代前期～後期にかけての遺跡）

註14 註5と同じ

註15 長崎県教育委員会「妙法塚遺跡」長崎県文化財調査報告書第45集 1979年

註16 有明町遺跡地図9

註17 長崎県教育委員会「松尾遺跡」長崎県文化財調査報告書第91集 1988年

註18 註5と同じ

註19 註5と同じ



図2 磐石原出土遺物

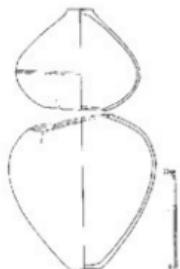


図3 妙法塚出土壺

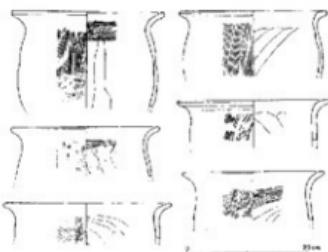


図4 松尾遺跡出土遺物



III-1 上一野遺跡調査

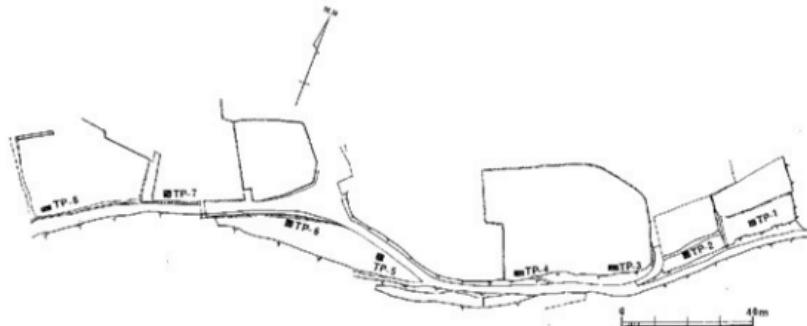
(1) 調査概要

今回調査を行なった地点は、町内南側島原市との境である標高35mに位置し現状は、黒ボク土壌のためニンジン・ゴボウ・ジャガイモを主に生産している。遺跡は、縄文時代早期の土器が分布調査のおり確認されており、調査がその縁辺にあたるところから遺物、遺構等の出土検出が考えられた。

調査区は、道路拡幅予定内の東西約240mの範囲を対象に試掘場8箇所を設定して(2×2mを5箇所と1.5×3mを3箇所)、東から西へTP-1・2・3……と記号番号を付した。



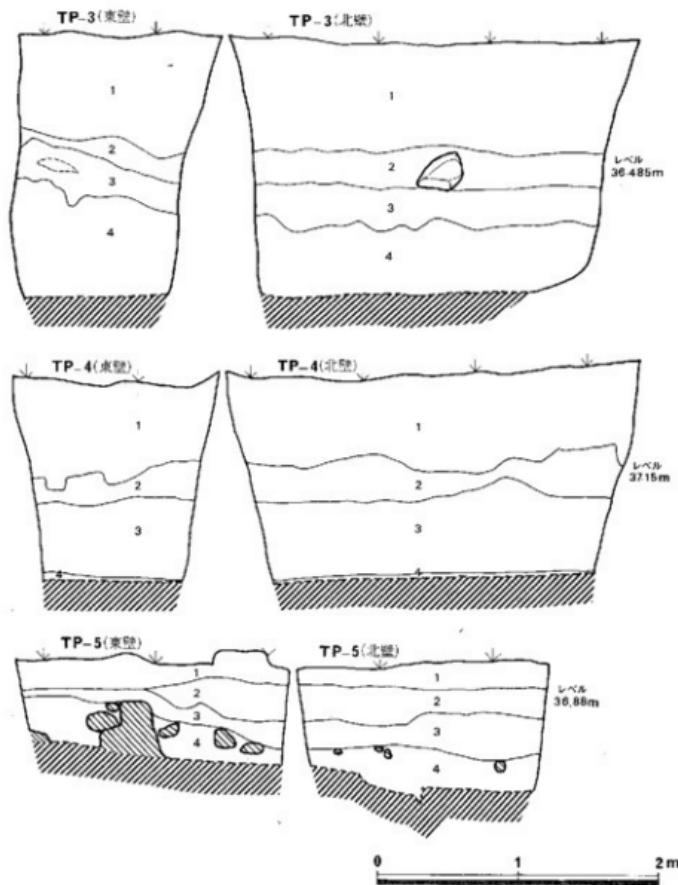
第6図 上一野遺跡位置図(1/25,000)



第7図 調査区配置図

(2) 土層

基本的に、4層に分類している。1層が耕作土である。2層には淡黒色土の所謂黒ボク土壤にあたる（調査地区によって濃淡があった）。3層黄褐色土で、縄文時代晩期の出土遺物があつた。サラッとして、きめが細かい。4層は、明黄褐色土の色調をなし、粘土質の堆積土に混じり上部の小礫からしだいに大礫に変わる。以上の状況であるが、TP-7・8区は、近年石垣造成のため搅乱を受ていた。また、TP-4区では、トレンチャー（ゴボウ収穫機械）による搅乱が認められた。



第8図 土層図

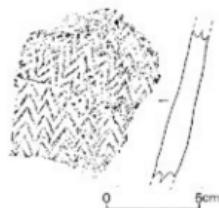
(3) 遺物

遺跡周辺には、弥生時代や縄文時代晩期の遺物が主に分布している。また、縄文時代早期の遺物が分布調査で広範囲に認められると報告があり、遺構・遺物等の発見が予測されたが、遺跡縁辺にあたるため包蔵状態が良好でなく文化層を確認できなかったものの、遺跡から約200m程北東側の一野集落内より（酒井氏宅庭より出土土器）山形押型紋土器が採集されているので図示（第9図）した。

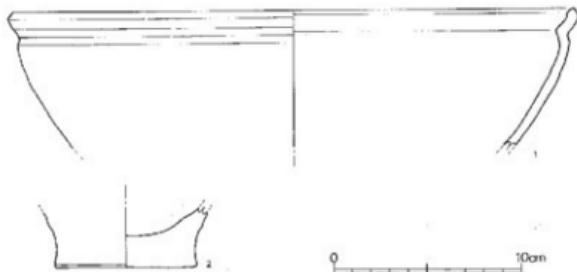
調査区内ではTP-3・4・5区において、縄文時代晩期の遺物出土があり、形状の明瞭な土器2点（第10図）と石器（第11図）をあげた。

1・晩期の研磨土器で、外面へラ磨きが顕著に残る。肩部で一段しまり頸部短くやや内湾ぎみに口縁部へ移行する。口縁端部に浅い凹線がはいる。肩部から胴部にかけては湾曲しながら移行する。また、内面には、2段の稜を作り口縁部に膨らみがある。色調は、外面墨茶色で、内面淡黄色を呈する。胎土には長石・黒雲母・石灰石粒等がまじり、細粒の粘土使用。径は、14.7cmを計る。2・平底の底部である。焼成比較的良好であるが、胎土やや粗い。外面には一部条痕が残る。

石器は、TP-3区で剝片及び剥片石器が3層（1～3）で3点2層（4～7）4点の出土

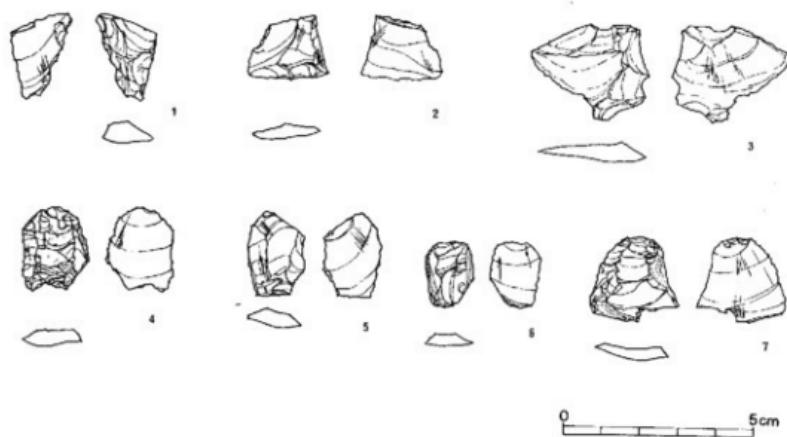


第9図 表面採集遺物



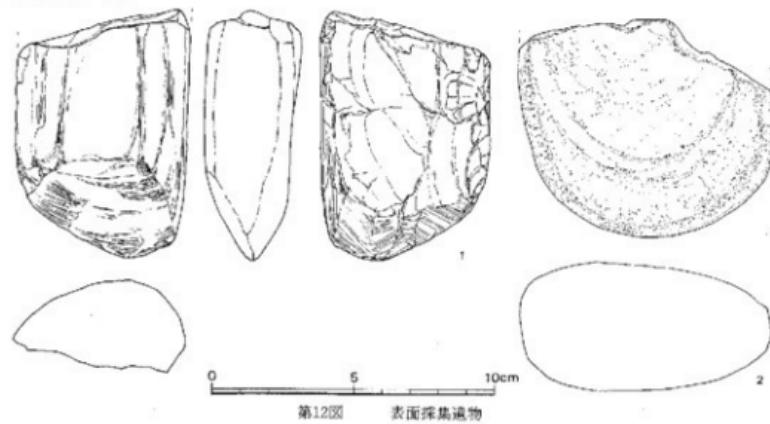
第10図 出土遺物

があった。1・自然面除去作業から生じた剝片と考えられ、主要剝離面上部から加熱し折損する。灰黒色の黒曜石を石材にあてている。2・正面下部に使用痕がある。ブレード状の剝片石器である。気泡のはいる質の悪い石材使用。3・サスカイト製の剝片。使用痕等はないが正面右側縁には、剝離痕が残る。4・正面左側縁に一部使用痕がある。また、下部側縁には自然面残す。5・下部より整形後、剝離をおこなった剝片。6・上部より整形の後剝離受ける。7・正面の自然面除去作業の後剝離した剝片。



第11図 出土遺物

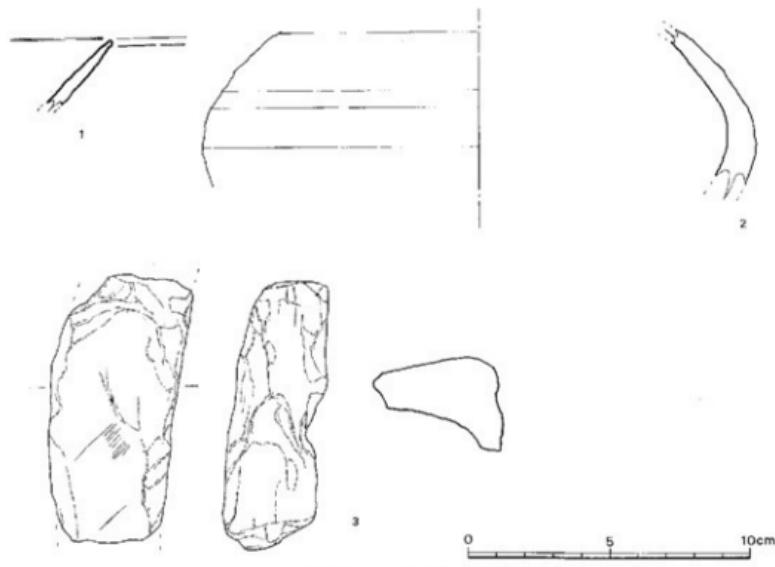
以上の他周辺（第12図）より玄武岩質の1・磨製石斧や2・側面を使用したスリ石等を表面採集している。



第12図 表面採集遺物

弥生時代の遺物は表面採集で得られているが調査区では、小片のため土師器と区別が明瞭に判別できない。

古墳時代の遺物では（第13図）土師器・須恵器・甕の一部がTP-3区2層より出土している。1・口縁端部まるみを持ち、ほぼ直線的なたちあがりである。内外面とも暗赤褐色を呈し



第13図 出土遺物

胎土に長石が混入する。刷毛目が外面にあり、内面には、右回りの整形痕が認められる。2・壺形須恵器の胴部片と思われる。下部にヘラ削りの整形痕があり上部には灰緑色の自然釉がかかる。外面淡灰色、内面灰黄色の火膨を呈する。3・壺の脚の部分で外面風化がすすむが、からうじて刷毛目が認められる。内面は指による押え整形痕がつく。内外面ともに明黄色の色調で胎土には黒雲母が混じる。松尾遺跡から同様の資料が出土している。

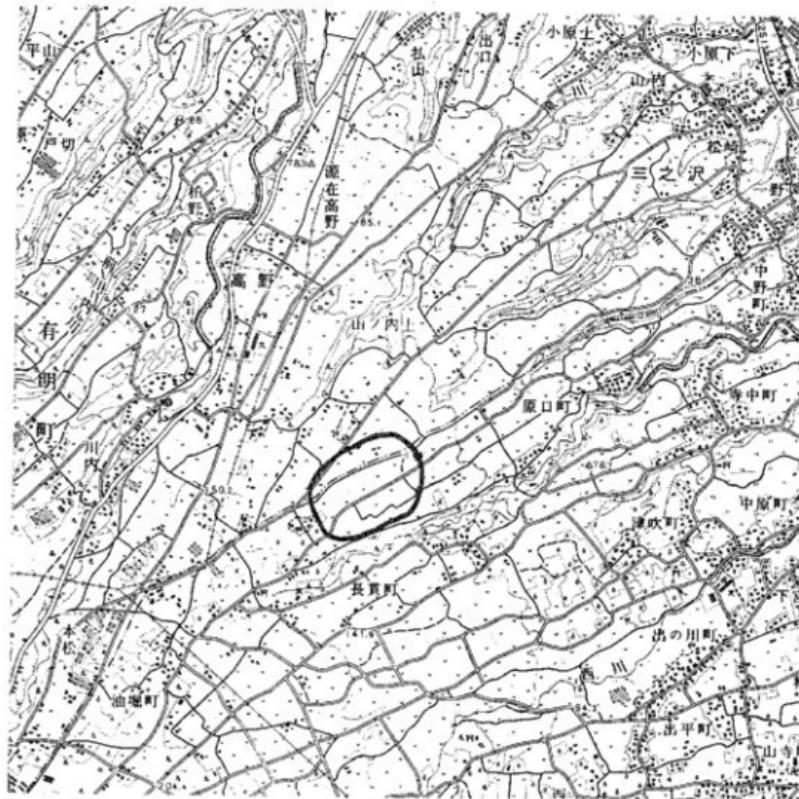
以上が主な出土遺物である。この他にも、瓦質土器や近世陶磁器片等が出土しているが小片のため図示しなかった。

III-2 原口A 遺跡調査

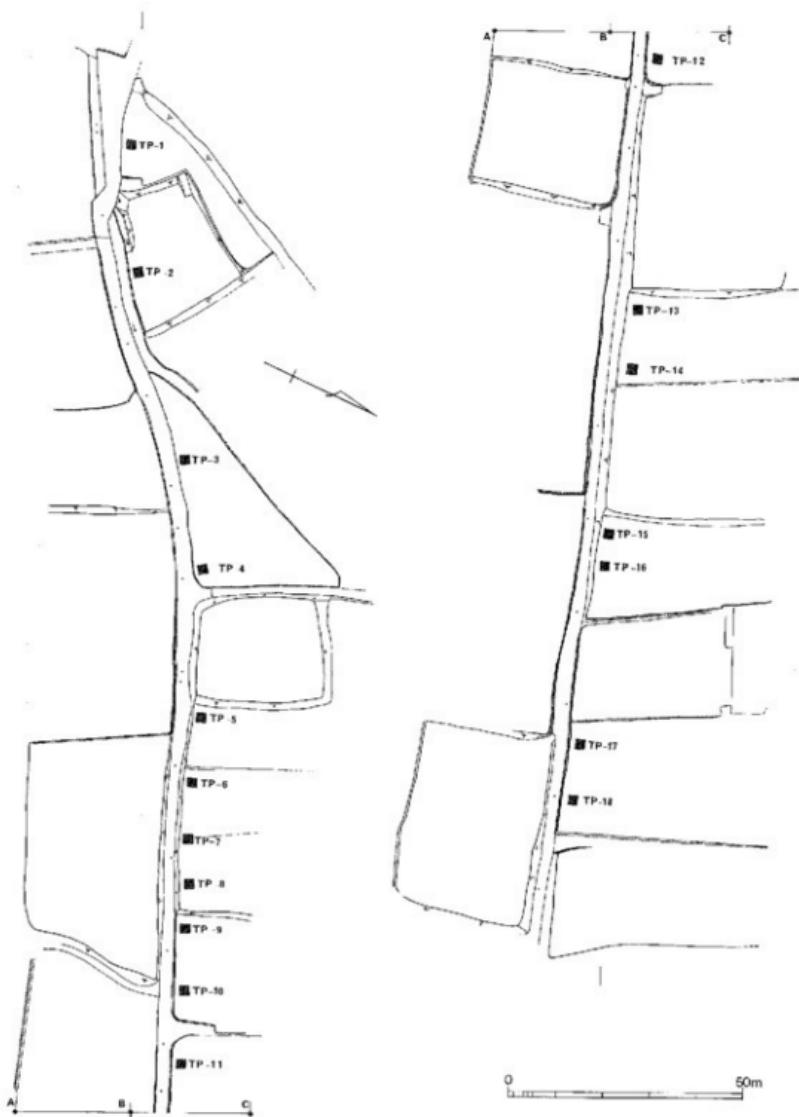
(1) 調査概要

本遺跡は島原半島の北東部にあり、雲仙北麓の緩い斜面上、標高120m～136mに立地している。現在ある、細い農道部分で島原市と接している。以前から遺物散布地として知られていたものであり、現在も周辺の畑には縄文時代の土器片や黒曜石・サスカイトの剝片などを採集することができる。遺跡は島原市側を中心があると考えられていたものの、正確な範囲は確認されておらず、農道拡幅計画に伴って性格や広がりについての確認が必要となった。

調査は有明町側の道路拡幅計画地内を約20mおきで試掘することとし、南西から北東方向にTP 1からTP 18まで、18箇所（2×2m）の試掘場を設定し実施した。



第14図 原口A 遺跡位置図(1/25,000)

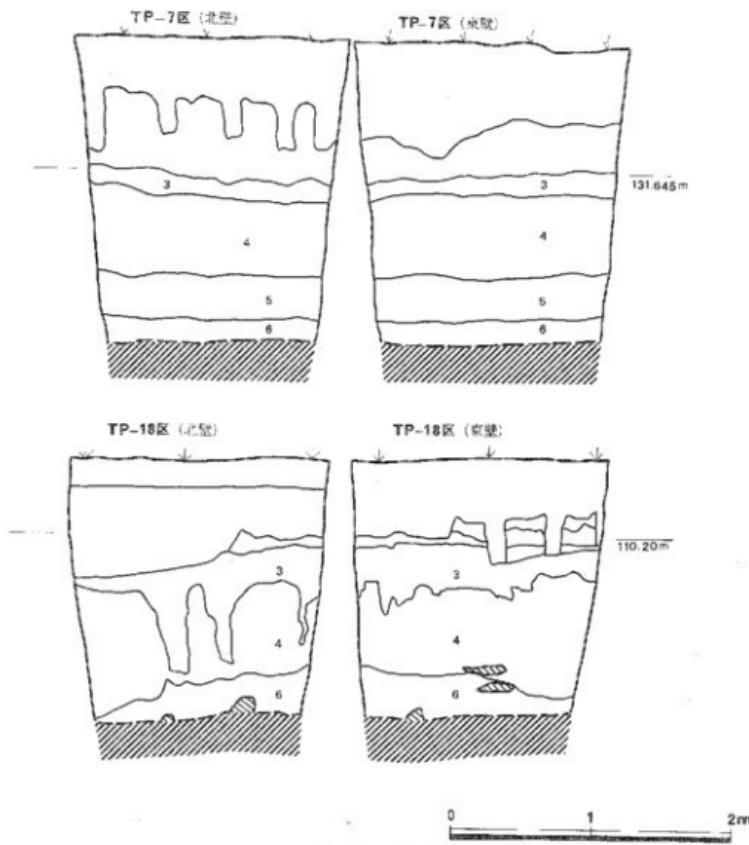


第15図 調査区配図

(2) 土層

この周辺一帯は畑作地帯のため當時深耕され、とくにゴボウの植え付けによってかなりの深さまで搅乱を受けていた。このため表土下、80cm～90cmまでは堆積状況の断片を確認できる程度で遺構・遺物等を包蔵する文化層は認められなかった。

堆積状況を上層図で説明すると、1・2層は、ゴボウ作付による搅乱層である。3層は暗茶褐色土。4層茶褐色土（ブクッ状に縱ひびが入り硬い土質である。）5層黒褐色土（軟質）6層黄褐色粘質土（礫を含んだ地山）以上のようになる。

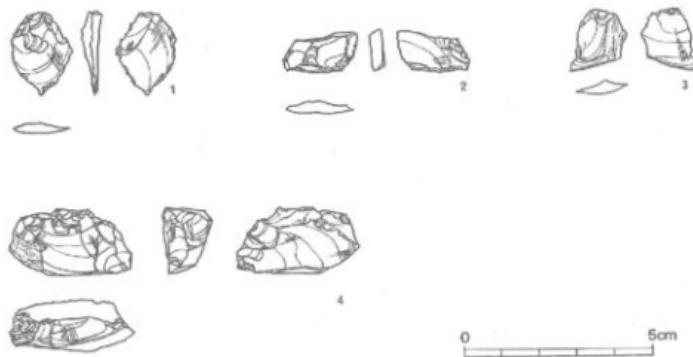


第16図 土層図

(3) 遺物

遺跡周辺には、黒曜石剝片・弥生式土器片等の散布が認められるものの調査区からの出土はなく、第17図に表面採集品を図示した。1・錐状石器で正面下部の両側から細かい調整加工を施す。2・下部端に使用痕のある剝片石器である。3・自然面を残す剝片。4・上面自然面残し、正面上部から剝離する。裏面は、下部より加撃、側面からの調整痕あり。下面は、剝離痕が新しく欠損したものと思われる。以上の遺物を持ちかえっていたので参考までに記載した。

土器については、表面採集品はあるもの的小片のため図化ができる資料がなく今回は割愛した。



第17図 表面採集遺物

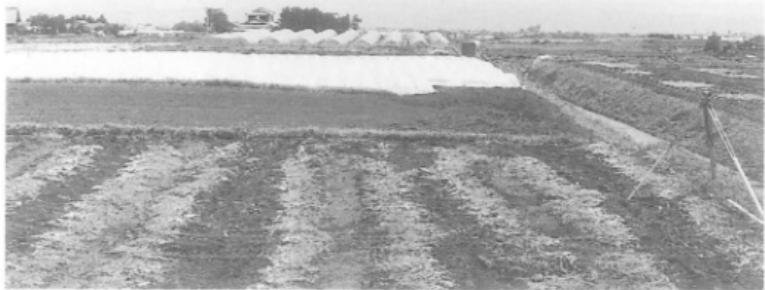
IV まとめ

上一野遺跡については、TP-3区で古墳時代の土師器・須恵器等の遺物が数点出土し、3層では縄文時代晩期II式後半の土器が認められた。また、TP-4・5でも若干遺物の出土があり、これらのことから縄文時代から古墳・歴史時代に及ぶ生活の場が考えられ、周辺に遺物遺構等を包蔵する文化層が発見される可能性が考えられた。

原口A遺跡は、遺物の散布は認められるが工事路線内に確実な文化層としての遺物包蔵地あるいは、明確な遺構等の残る可能性はないものと判断された。しかし、島原市側に遺跡の中心部があるものと予想され詳細な範囲、時代、性格等の実態については、今後の調査に期待される。

図 版





原口A 遺跡から
北方の上一野遺
跡方面を望む

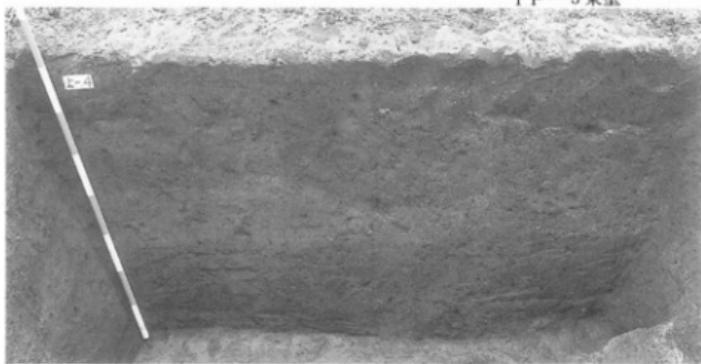


上一野遺跡近景・調査風景

図版 2



TP-3 東壁



上-4



上-5

上一野遺跡土層

TP-5 東壁



原口A 遺跡近景・調査風景

图版 4



TP—7区 北壁



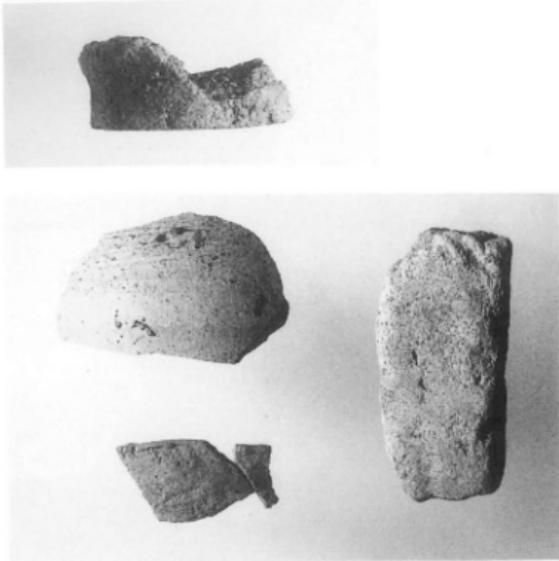
原口A 遗迹土层

TP—18区 北壁

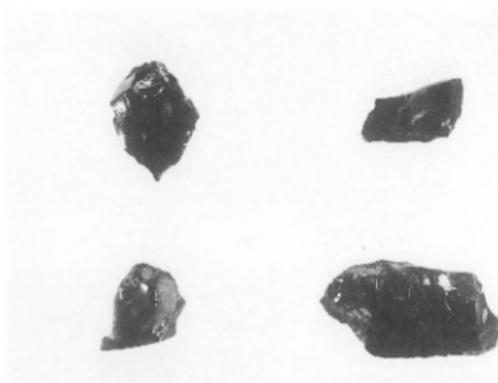


上野遺跡(出土及び表面採集遺物)

図版 6



上一野遺跡出土遺物



原口A 遺跡表面採集遺物

上一野・原口A 遺跡(出土及び表面採集遺物)

有明町文化財調査報告書第8集

上一野・原口A遺跡

平成2年3月31日

発行 長崎県有明町教育委員会
〒859-14 南高来郡有明町大三東戸1438番地

印刷 川口印刷株式会社
〒851-01 長崎市田中町1020-7